

## BIMobject Japan 株式会社と応用技術株式会社 汎用性のある BIM データの流通に向けた協業を開始 ～データ基準の統一化で BIM ユーザーの利便性向上・設計業務の効率化を実現～

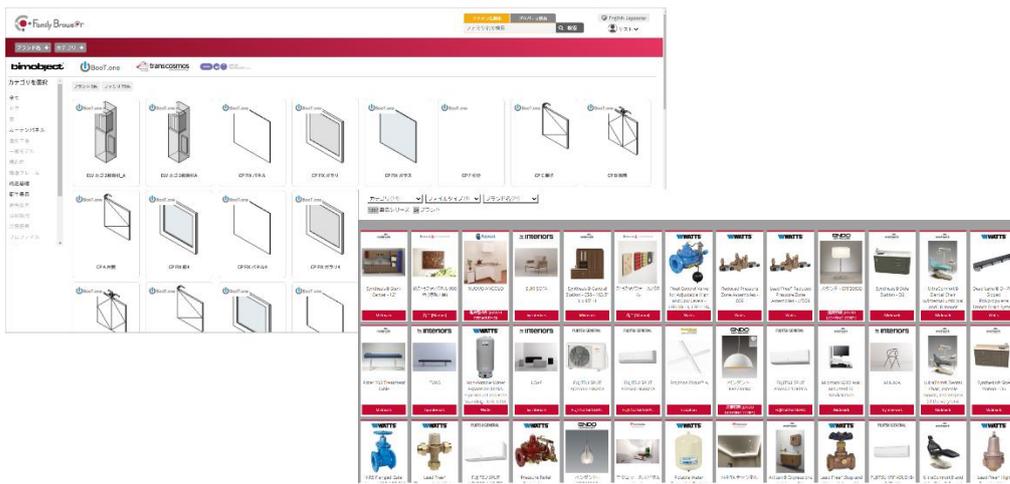


BIM コンテンツプラットフォーム「BIMobject® Cloud」の国内運営を手掛ける野原グループの BIMobject Japan 株式会社（所在地：東京都新宿区、代表取締役社長：東 政宏、以下 BIMobject Japan）と、BIM ソフト「Autodesk Revit」ユーザーに向けたアドインパッケージ「BooT.one（ブート.ワン）」の開発および提供を行う応用技術株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：船橋 俊郎、以下 応用技術）は、2021年3月、BIM 普及による国内建設業界の生産性向上を目指して協業を開始することに基本合意しました。

国内の BIM 普及には、共通基準で作成されたデータ流通により BIM モデルの汎用性を高める必要があると考えています<sup>i</sup>。本協業では、総合建設会社を中心に導入普及率が高まっている「Autodesk Revit」<sup>ii</sup>にフォーカスし、より多くの会社間で共通して利活用できる一定ルールに基づく BIM オブジェクトの作成とデータ公開を予定しています。BIM ユーザーは、プロジェクトごとに BIM オブジェクトを作成することなく、整合性のとれた BIM モデルを円滑に制作できるので作業効率と精度の向上が期待できます。建材設備メーカーは、自社製品の汎用性ある BIM オブジェクトが流通することにより BIM の世界での存在感を高め、新たな販路拡大の機会を得ることが期待できます。

### 概要 | 汎用性のある BIM データの流通、利活用の促進

私たちは、両社の知見を融合させ、国内 Revit ユーザーが利用しやすいデータの提供、BIM コンテンツの充実、国際標準を見据えた国内基準の明確化に取り組み、国内 BIM 普及に貢献します。



■ 「BIMobject® Cloud」以外にもデータダウンロード環境を整備予定（2021年4月以降）

### 1. BIM ユーザーが使いやすいデータの普及を追求する二社の知見の融合

- ・ BIMobject Japan は、世界 2000 社以上のメーカー・56 万点の BIM オブジェクトをはじめとする建材製品情報を掲載する BIM コンテンツプラットフォーム「BIMobject® Cloud」を国内で運営しています。世界のあらゆるファイルデータを提供することで、年間 2500 万のファイルダウンロード実績があります。また、BIMobject 社の BIM 先進国内の支社との情報交換等により、BIM プロジェクトで求められる、BIM ユーザーが利用しやすい環境を熟知しています。

- ・ 応用技術の BooT. one は、個人のスキルに依存することなく同じルールで整合した BIM モデルと図面の作成による国内 Revit ユーザーの生産効率向上を目的としたアドインパッケージで、設計事務所・ゼネコンなど、すでに国内 300 社以上で使用されています。“実務に携わるユーザー” からアイデアや要望を積極的に取り入れ、利用しやすい BIM オブジェクトに反映させています。

## 2.現状を踏まえたベストプラクティスによる、汎用性のある BIM データの流通、利活用の促進へ

- ・ 現段階での両社のベストプラクティスを結集させ、国内のBIM普及の実態に合った扱いやすく、汎用性のあるBIMデータの作成<sup>iii</sup>・流通により、BIMユーザーの利便性向上・設計業務の効率化を支援します。
- ・ BIMプロジェクトの設計、施工、維持管理の各フェーズで相互運用できるオブジェクトを中心に「BIMobject® Cloud」にデータを随時掲載します。2021年4月以降は、「BIMobject® Cloud」以外にも、BIMユーザーがデータをダウンロードできる環境を整備する予定です。

## 3.国内の BIM 利活用に向けた標準化に取り組む

- ・ 本協業により流通する BIM オブジェクトが、より多くの Revit ユーザーに使用されることで、BIM オブジェクトに関する仕様の統一化・標準化を図り、整合性のとれた BIM モデルの作成・運用による業務効率化に寄与できると期待しています。

## BIM 普及を巡る課題

国交省が BIM/CIM の原則適用を目指す方針を決定し、ガイドライン（第 1 版）<sup>iv</sup>策定からまもなく 1 年が経過しようとしています。現状は普及に向けた環境整備段階にあります。

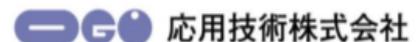
国内建設業界は、他国にない独特な発展過程からくる特殊構造があり、BIM 普及には実務レベルで使用できるデータの基準が明確化されていないこと、操作の理解不足（運用ノウハウ）、メーカー提供オブジェクトの不足などが課題として挙げられています<sup>v</sup>。

私たちは、本協業により、設計、施工、維持管理の各フェーズで、建設プロジェクトの進行に応じて、一貫して使用できるデータとその詳細度を模索しながら、BIM に関するデータ仕様の統一化・標準化と扱いやすいデータの流通により、ユーザーエクスペリエンスやモデル品質の向上、国内の BIM 普及の底上げに貢献したいと考えています。

## 応用技術株式会社について

1984 年の会社設立以来、ものづくり支援や BIM, GIS を活用したソリューションサービス事業と、防災環境分野を対象としたエンジニアリングサービス事業を両軸に、お客様の現場の課題解決に貢献できる企業となるべく、常に最先端の技術・製品・サービスを提供できる企業として技術スキルを高めながら成長しています。

特に BIM 分野においては、親会社であるトランスコスモスと共同で、人財と最新技術の融合による新しいサービスの形である toBIM サービスを展開しています。



### ■ BooT. one (ブートワン)

BooT. one は、toBIM サービスの軸として、BIM の初心者をはじめとする建設従事者誰もが BIM ソフト Revit を使えるように、便利コマンド、テンプレート、ファミリー、ガイドライン、トレーニングビデオコンテンツといった BIM 導入に必要な要素を網羅したアドインパッケージです。設計事務所・ゼネコンなどで次々に導入が進み、多くのプロジェクトで使用されています。<https://portal.tobim.net/bootone>

### ■ toBIM サービス (トゥビムサービス)

システム開発・導入サービス・活用サービス・BPO サービス・システム販売の 5 つのメニューで BIM の利活用を総合的にサポートするサービスです。<https://tobim.net/>

## BIMobject Japan 株式会社について

建材商社である野原ホールディングスと、BIM コンテンツプラットフォーム「BIMobject® Cloud」を世界的規模で展開する BIMobjectAB (Malmo Sweden) が 2017 年 12 月 27 日付で設立した、BIM の国内向けサービス会社です。

BIMobject® Cloud は、世界の建設資材や設備等のメーカー製品の BIM コンテンツ(製品のデジタルデータ)

をはじめとするあらゆる情報/データを掲載しています。メーカーにとっては自社製品をグローバルに発信できる場になっており、様々なサイトやソリューションとも幅広く連携できるだけでなく、全てを一括管理できる高機能なデータ管理システムとしての側面も持っています。設計者にとってはメーカー監修のオブジェクトデータを無料で入手できる場となっています。

▼BIM コンテンツプラットフォーム「BIMObject® Cloud」

<https://www.bimobject.com/ja/product>



## 野原ホールディングス株式会社について

野原ホールディングスを中心とする野原グループは、建設業界を中心に建材や鉄鋼関連、セメントなどの資材販売、道路交通標識などの販売・施工を通して事業を拡大してまいりました。

私たちは、2020年8月より掲げる新ミッション「CHANGE THE GAME. クリエイティブに、面白く、建設業界をアップデートしていこう」のもと、これまで培ってきた知見をさらに磨き、未来につなげていくことで、より一層社会に貢献して参ります。

<https://nohara-inc.co.jp>



### 【本件に関するお客さまからの問合せ先】

BIMObject Japan 株式会社（担当：原田）

E-Mail：[japan@bimobject.com](mailto:japan@bimobject.com)

### 【本リリースに関する報道関係者からの問合せ先】

野原ホールディングス株式会社 社長室（担当：齋藤）

E-mail：[nhrpreso@nohara-inc.co.jp](mailto:nhrpreso@nohara-inc.co.jp)

- 
- i 第1回建築BIM推進会議「資料6 関係団体等におけるBIMの取組報告」では、課題として、「設計、施工、維持管理の各段階において、事業者ごとにバラバラなシステムで運用されているため、データの再入力や異なるフォーマットへの変換等、重複作業が生じている」「BIMを活用するための共通ライブラリが未整備のため、主体ごとに独自に部品データを入力する必要があり、膨大な作業を要している」が挙げられています。
- ii Revitは、Autodesk社製のBIMソフトウェアです。1つのモデルで意匠・構造・設備設計から施工・管理まで利用できます(<https://www.autodesk.co.jp/products/revit/overview?term=1-YEAR#revit-intro>)。また、勤務先で使っているBIMツールランキングは、日経BP社発表の「BIM活用実態調査レポート2020」を参照願います。  
(<https://damassets.autodesk.net/content/dam/autodesk/www/apac/pdf/bim-report-final.pdf>)
- iii BIMオブジェクトの作成は、メーカーからの依頼を受け、弊社とBooT.oneチームが協働し、弊社からメーカーに納品後、BIMコンテンツプラットフォーム「BIMObject® Cloud」に掲載します。
- iv 詳細は、国土交通省WEBを参照願います。  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/house05\\_hh\\_000829.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_000829.html)
- v 詳細は、以下を参照願います。
- ・建築BIM推進会議の各資料  
(<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>)
  - ・日本建築士事務所協会連合会「BIMと情報環境ワーキンググループ」  
([https://www.njr.or.jp/pdf/BIM\\_report\\_web.pdf](https://www.njr.or.jp/pdf/BIM_report_web.pdf))